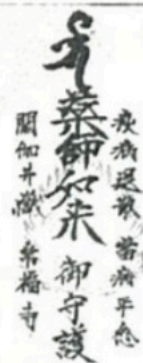


疫病退散と
當病平癒を願う
常福寺の御札



もともと疫病が蔓延した際に、薬師如来像を水石山の剣ヶ峯に安置して、鎮める祈願をしたのが始まりの関伽井嶽薬師常福寺。千三百年の長い歴史のなかでは何度も疫病の流行が繰り返され、その度に御札が作られてきた。

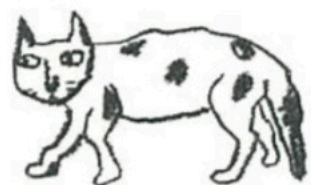
新型コロナウイルスの感染が広がるなか、住職の上野宅正さんは昔のさまざまな話を聞きながら、現代の解釈で「疫病退散と當病平癒」を願う御札を復活させた。その御札や健康守を、コロナの患者の治療にあたっていた、いわき市医療センターの医療スタッフに贈ったという。

なかには防護服を着る前にお守りを握りしめ、それから着替えて現場に入ったスタッフもいた。夜になると医療センターから関伽井嶽の外灯が見え、前から手を合わせる患者はいたが、治療などに向かうスタッフのなかにも、通路から見える灯りに手を合わせる姿があった。

常福寺の本堂には三月末から、疫病退散と市民安穩の祈願をし続けている御札がある。すでに火を二百回以上くぐったその御札はまっ黒で、上野さんはいずれ市役所に届けようと考えている。

常福寺では「疫病退散と當病平癒」の御札を一枚千円で渡している。

さんぽ道



関伽井嶽旧参道

赤井側から関伽井嶽に車で向かうと、シオンの丘を通り過ぎたあと左側に「赤井嶽旧参道入口」の案内がある。そこには滝不動とも書かれていて、南西方向に200m下ると、大岩から流れ落ちる滝がある。昔、厳冬のなか行者が滝に打たれる修行場だった。

案内板から常福寺までは約1km。少し行くとお地蔵さんが立っていて、旧参道の間ぐらいいには、頭に大スギが立っている。亀の子石がある。そしてヒノキの大木が現れ、あと300mを示す「三丁」の道標のあと、巨大なスギ木立となる。それはもののけ姫の森の世界。「二丁」の道標は観音さまたち。石段を登りつめると常福寺の境内に出る。

